

クモラン(蜘蛛蘭)



岡山県中部の神社で見つけたクモラン (2023年1月)

ラン科の植物には動物に由来する名前を持つものがあります。クモラン(蜘蛛蘭) *Taeniophyllum glandulosum* はその一つで、四方に根を広げる姿が蜘蛛そっくりです。葉は退化しており、根で光合成をしています。

クモランは大きさ2~3 cmほどしかなく、しかも木の上に着生(ちやくせい)しているので、なかなか発見できません。ただし、自生地では枝と一緒に落下した個体を見かけることがあります。

岡山県でのクモランの記録は少なく、岡山県版レッドデータブック 2020 植物編では**絶滅危惧 I 類**と最も高いランクに位置付けられています。園芸採取と森林伐採がリスクに挙げられていますが、小さくて目立たないので、存在に気がつかれることなく着生木が剪定・伐採される恐れも大きいように感じます。

木や岩にはりついて生活する着生植物(寄生植物とは異なる)には、クモランを含めて多くの種があります。特に、神社やお寺などの古い木には様々な着生植物が見られることがあります。木とともに着生植物たちが守られ、生き続けてほしいと思います。

鐵 慎太郎(植物担当)

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには
いろいろな情報がいっぱい♪
「倉敷市立自然史博物館」で
検索してみよう! パオより

